

いつ	どこで	どんな富士を見て	どう思った。	その思いを抱いたきっかけ。	気分のカ
三年前の冬	東京の آپार्ट	小さい、真っ白い三角が地平線にちよこんと出て、左のほうに傾いている。	のろくさと広がっていて、秀抜のすらりとした高い山ではない。	ある人から意外の事実を打ち明けられ、途方に暮れた。	
昭和十三年の初秋	甲州 御坂峠	真ん中に富士があつて、その下に河口湖が白く寒々と広がり、近景の山々がその両袖にひっそりうすくまって湖を抱きかかえるようにしている。	よかった。おどろいた。頼もしさを全身に浴びた。		
御坂峠の茶屋へ来て二、三日経って	三ツ峠 頂上のパノラマ台の地味な茶店	茶店の老婆が持ち出してきた富士の大きい写真。	いい富士を見た。	老婆が霧で実物の富士が見えないのを気の毒がり、懸命に注釈してくれたこと。	
翌々日	見合いの席	富士山頂上大噴火口の鳥瞰写真。	真っ白い睡蓮の花に似ている。ありがたい。	娘さんとの結婚を決意させてくれたこと。	
九月終わり?	御坂の茶店	初冠雪した富士。	いい。ばかにできないぞ。		
九月? なかば	バスの中 御坂の茶店	富士山に対峙する月見草。	富士山と立派に対峙する月見草がいい。富士には月見草がよく似合う。	隣に座った老婆が全く富士を見ず、「おや、月見草」と言ったこと。	
十月	御坂の茶店	御坂の富士。	自分の考える「単一表現の美しさなのかもしれない」と妥協しかけ	仕事が苦しい。	

